

第2期市川三郷町データヘルス計画（概要版）

●データヘルス計画とは

国よりすべての保険者に対し、計画策定を義務付けたもので、町では国民健康保険に加入している方の医療情報や健診結果情報を分析し、PDCAサイクルで効率的・効果的な保健事業を実施するための計画です。



●計画の基本的事項

(策定の趣旨)

町では、長期的な医療費抑制を目指すため、H28年9月に第1期データヘルス計画を策定し、保健事業を実施してきました。第1期データヘルス計画を分析・評価するとともに国保の医療費等の現状分析を行うことで、より効果的かつ効率的な保健事業を行うために策定したのが本計画である第2期データヘルス計画となります。データヘルス計画により健康課題を明確にし、生活習慣病対策をはじめとする被保険者の健康増進、糖尿病等の発症予防や重症化予防等に関する効果的な保健事業を実施していきます。

(計画期間)

計画期間についてはH30年度からとし、関係する計画との整合性を図るため、第3期市川三郷町特定健康診査等実施計画の最終年度であるH35年度までの6年間とします。

(計画の評価及び見直しについて)

PDCAサイクルに沿って毎年度評価を行い、必要に応じて事業内容等の見直しを行います。



●第1期データヘルス計画からの問題点と対策

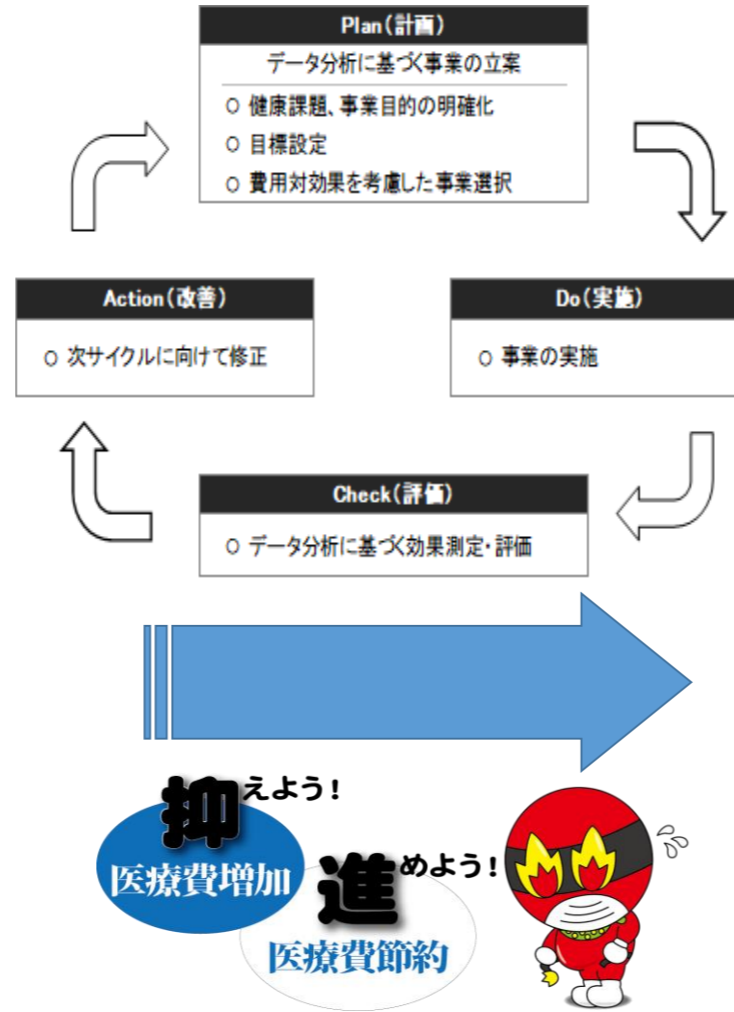
- ・外来医療費や介護保険の新規申請理由、死亡原因など生活習慣病が原因となる疾病が上位を占めていて、生活習慣病の割合も年々増加している。
- ・入院医療費を見ると、統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害が上位を占めている。
- ・生活習慣病対策として有効な運動習慣の確立について取り組んでいるが成果が得られていない。
- ・特定健診について、近年は受診率が増えず、ほぼ横ばいとなっている。特に40～50歳代の受診率が低い状況である。
- ・生活習慣病の原因となるメタボリックシンドロームの割合が山梨県と比較高い状況にある。
- ・ジェネリック医薬品の使用促進について、第1期データヘルス計画でも取り組んで使用率は上昇しているものの県と比較すると7%低い状況である。

対策

- ・生活習慣病対策として、メタボリックシンドロームの該当者の割合を減らす。
- ・外来患者の医療費で高額となっている腎不全、糖尿病、高血圧性疾患の原因となる生活習慣病対象者の増加を抑制する。
- ・特定健診受診率の向上のため、40～50歳代へPRを行う。また、特定健診受診者へのインセンティブについても検討を行う。
- ・直接的に医療費の削減につながるジェネリック医薬品の利用促進について、PR方法等を検討しながら、引き続き行っていく。

第1期データヘルス計画の評価

対策内容			達成度
生活習慣病からの新規透析導入者の減少			○
目標	実績値		
新規透析導入者数を5人以下にする	H28 3人	H29 5人	
生活習慣病予防のための運動習慣の確立			×
目標	実績値		
運動習慣があると答える人の割合を前年度より3%アップする (H27: 38.4%)	H28 37.1%	H29 29.4%	
40～50歳代の特定健診受診率の向上			×
目標	実績値		
40～50歳代の特定健診受診率を3%上げる (H27: 39.5%)	H28 40.6%	H29 39.4%	
ジェネリック医薬品利用促進への対策			○
目標	実績値		
ジェネリック医薬品使用率 45.0%	H28 52.0%	H29 55.0%	



第2期データヘルス計画の目標

対策内容				
メタボリックシンドローム該当者及び予備軍の減少				
H35目標	年度別目標			
メタボリックシンドローム該当者及び予備軍 400人以下	H30 465人	H31 452人	H32 439人	進捗確認 中間評価
生活習慣病対象者の増加の抑制				
H35目標	年度別目標			
生活習慣病対象者の割合 35.0%以下	H30 38.0%	H31 37.5%	H32 37.0%	進捗確認 中間評価
特定健診受診率の向上				
H35目標	年度別目標			
特定健診受診率 60.0%	H30 56.5%	H31 57.2%	H32 57.9%	進捗確認 中間評価
ジェネリック医薬品利用促進への対策				
H35目標	年度別目標			
ジェネリック医薬品使用率 80.0%	H30 57.0%	H31 62.0%	H32 67.0%	進捗確認 中間評価